

残胃癌術後における短期・長期成績に影響する新たな個別化臨床指標の探索

1. 研究の対象

2009年1月1日から2019年12月31日に当院で残胃癌手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

当院の外科で残胃癌に対する手術加療を受けられた方の診療録（カルテ）から以下の情報を取得します。年齢などの基本情報と臨床情報の関連性を分析し、患者さんの状態に合わせた適切な治療方針について検討します。

- 1) 主要評価項目／術後生存率、独立予後因子
- 2) 副次的評価項目／背景因子、手術関連因子、病理学的因子、術後経過因子の予後への影響

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 1) 患者基本情報:

年齢、性別、BMI(体型を表す指標)、既往歴、投薬内容、嗜好歴、家族歴など。

- 2) 消化管内視鏡及び各種画像検査:

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、消化管造影検査、胸腹部造影 CT 検査、PET 検査、MRI 検査など。術前・後問わず診療経過中に得られた画像検査結果を対象とします。

- 3) 血液生化学検査:

外来・入院問わず、京都中部総合医療センターで得られた血液検査結果を参照します。

- 4) 病理組織診断:

術前内視鏡検査による生検や、手術で摘出した組織を対象とし、診療上必要であり評価された病理診断結果を参照します。

- 5) 手術関連情報:

手術術式、手術時間、出血量など、手術に関連する結果を参照します。

- 4) 術後経過、生命予後:

周術期合併症の有無と内容。上部消化管癌の再発・予後についての追跡調査を最低術後5年間行い、その結果を参照します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者：

京都中部総合医療センター 外科 渡邊 健次

-----以上